

OCT.28.1983

種生物学研究会 News Letter

No.1 (1983.10.31)

植物の種生物学・進化生物学関連出版物

(1980 — 1983)

最近の種生物学・進化生物学関連の出版物の増加は莫大なもので、一人の研究者が全てをフォローすることは殆ど不可能になりつつあります。しかし種生物学のような学際領域においては、単行本の形で出版される総説が雑誌論文同様、場合によってはそれ以上に価値をもつことも事実です。ここでは1980年以後の関連出版物をできるだけ巾広くリストアップしてみました。動物学者による出版物でも、植物の進化に関する一般的記述がなされているものはとりあげるようにしました。小見出しあは編集者の判断で適当につけたものです。

繁殖戦略と生活史の進化

Plant Reproductive Ecology. Mary F. Willson. 1983. John Wiley & Sons, Inc., New York, 282pp. ¥11,200.

生活史・性システム・交配・子孫の4章から構成されている。植物の繁殖戦略についての最近の研究動向を知るのに便利である。

The Masterpiece of Nature : The Evolution and Genetics of Sexuality. Graham Bell. 1983, University of California Press, 600pp.

最近注目を集めている性の進化についての大著。性現象に興味を持つ人には必読の書。

Mate Choice in Plants. Mary F. Wilson & N. Burley. 1983. Princeton Univ. Press, Princeton, 244pp. ¥14,560.

性選択による交配システムの進化を主張するウィルソン女史の持論が展開されている。

Evolution and Genetics of Life Histories. H. Dingle & J. P. Hegmann. 1982. Springer-Verlag, New York, 250 pp. ¥12,460.

理論・生理的適応・繁殖様式・生活史の集団内変異・生活史の集団間変異・討論の6部構成からなるシンポジウムの記録論文集。植物学者としてはT. R. MeagherとJ. AntonovicsがChamaelirium属(シライツウ属に近い)の雌雄異株植物を用いた進化生態学的研究を報告している。

Strategies of Plant Reproduction. W. J. Meudt (ed.). 1983. Beltsville Symposia in Agricultural Research 6. Allanheld, Osmun Publisher, London, 386pp.

シンポジウムの記録による論文集。繁殖上の可変性(Heslop-Harrison), 性(Orunduff), 送粉過程(Linskens), 作物の加速的進化の管理(Harlan)が論じられた後, 光調節系・ホルモン調節系・繁殖の管理と調節・環境要因とストレスという章が設けられ計22の論文が収められている。農学者・生理学者の貢献が大きな比重を占めている。

Demography and Evolution in Plant Populations. O. T. Solbrig (ed.) 1980. Blackwell Scientific Publications, Oxford, 222pp. ¥11,200.

8人の研究者による論文集。8編のいずれもが力作の総説である。最初の3章は入門者への配慮から基礎的概念のレビューにあてられ、続いて交配系(Lloyd), 栄養繁殖(Abrahamson), 埋土種子集団(Cook), 作物(Snaydon), 熱帯林(Sarukhan)をめぐる諸問題が論じられている。

植物と動物の相互適応・送粉生物学

Handbook of Experimental Pollination Biology. C. E. Jones & R. J. Little (eds.). 1980. Van Nostrand Reinhold Company Inc., 558pp. ¥14,880.

26篇からなる論文集。花の誘導形質と動物の行動、送

粉の化学的・物理的諸側面、送粉者のエネルギー収支、競争と送粉、遺伝子フローと送粉、温帯と熱帯のフェノロジー、送粉生物学におけるシステム生態学、応用送粉生態学の8節に区分されている。この領域に関心を持つ人には必携の書である。

Proceedings of the 5th International Symposium on Insect-Plant Relationships. J. H. Visser & A. K. Minks (eds.). 1982. Pudoc; Centre for Agricultural Publishing and Domestication, Wageningen, 464pp. ¥16,900.

生理(10篇)、行動(10篇)、生態(12篇)、進化(6篇)、植物の抵抗性(3篇)の5部及びポスターセッションの要旨(44)から構成されている。この領域の研究の現状がわかつて便利である。

Ant-Plant Interactions in Australia. R. C. Buckley (ed.). 1982. Dr. W. Junk Publishers, the Hague, 162pp. ¥16,250.

The Biology of Nectaries. B. Bently & T. Elias (eds.). 1983. Columbia University Press, New York, 259pp. ¥14,520.

Herbivory: the Dynamics of Animal-Plant Interactions. M. J. Crawley. 1983. Blackwell Scientific Publications, 320pp. ¥8,000.

個体群・群集の生態学

Introduction to Plant Population Ecology. J. W. Silvertown. 1982. Longman Group Ltd, London, 209pp. ¥4,770.

植物の個体群生態学の教科書としては初めての著作である。説明は平易であり図表も多く入門書として適切である。初学者向けに書かれているが、現場の研究者が基本的な知識を再確認するためにもよい本である。

Population Ecology : A Unified Study of Animals and Plants. M. Begon & M. Mortimer. 1981. Blackwell Scientific Publications, Oxford, 200pp. ¥4,580.

個体群生態学や進化生態学の基礎は動物についての研究を通して築かれてきた。本書は植物学者が動物個体群生態学の到達点を学び、植物個体群生態学の将来について考える上で好著である。図表が多くページ数

も手頃でとりつきやすい本である。

Island Populations. M. Williamson. 1981. Oxford University Press, Oxford, 286pp. ¥5,010.

MacArthur & Wilson (1967)以来の議論と研究の到達点が吟味されている。

Competition and Coexistence of Species. A. J. Pontin. 1982. Pitman Advanced Publishing Program, Boston, 102pp. ¥5,720.

Resource competition and Community Structure. 1982. *Monographs in Population Biology* 17. Princeton University Press, Princeton, 296pp. Hard: ¥11,520. Paper: ¥4,160.

生態学と遺伝学の接点

Population Biology. G. D. Elseth & K. D. Baumgardner. 1981. D. Van Nostrand Co., New York, 623pp. ¥7,980.

集団遺伝学と個体群生態学の理論の基礎が練習問題付きで解説されている。解説は平易である。理論は苦手という人への入門書として適當な本である。

Ecological Genetics. D. J. Merrell. 1981. Longman Group Ltd, London, 500pp. ¥8,250.

遺伝学をベースにした本だが7章には「多型性と個体群動態」、16章には「競争」がとりあげられ、個体群生態学の成果ににらみをきかせた構成となっている。14章では60ページをさいて「種概念」が論議されている。

集団遺伝学・統計遺伝学

Molecular Evolution, Protein Polymorphism and the Neutral Theory. M. Kimura (ed.). 1982. Japan Scientific Societies Press, Tokyo, 353pp.

1978年から81年にかけて実施された分子進化に関する特定研究プロジェクトの研究成果をとりまとめたもの。日本におけるこの領域の研究の到達点を知るのによい。*Principles of Population Genetics.* D. L. Hartl. 1980. Sinauer Associations, Inc., Sunderland, Massachusetts, 488pp. ¥6,520.

初学者向きの教科書。基本的な概念やパラメーターがていねいに解説されており、各章末には練習問題がつけられている。

Biometrical Genetics, third edition. K. Mather & J. L. Jinks. 1982. Chapman and Hall New York, 396pp. ¥12,370.

古典的名著の第3版。種の変異の遺伝的解析にたずさわる研究者には必携の書である。

進化の数理

The Natural Selection of Populations & Communities. D. S. Wilson. 1980. The Benjamin/Cummings Publishing Co., Inc., Menlo Park California, 186pp. ¥5,620.

Evolution and the Theory of Games. J. Maynard-Smith. 1982. Cambridge University Press, Cambridge, 224pp.

Evolution in Age-structured Populations. Brian Charlesworth. 1980. Cambridge University Press, Cambridge, 300pp. Hard: ¥12,100. Paper: ¥4,120.

自然保護と種の進化

Conservation Biology. An Evolutionary-Ecological Perspective. M. E. Soulé & B. A. Wilcox. (eds.). 1980. Sinauer Associates Inc., Sunderland, Massachusetts, 395pp.

Conservation and Evolution. O. H. Frankel & M.E. Soulé. 1981. Cambridge University Press, Cambridge, 327pp. Hard: ¥15,120. Paper: ¥5,470. Genetic Consequences of Man Made Change. J. A. Bishop & L. M. Cook (eds.). 1981. Academic Press, 409pp. ¥18,240.

自然保護は進化生物学者が責任をもって発言すべき応用領域と言えるだろう。基礎科学はしばしば応用領域との接觸を通して新しい展開を作り出す。そうした意味で上掲書から我々が学ぶところは決して少なくない。

倍数性と細胞遺伝学

Polyplody. Biological Relevance. W. H. Lewis (ed.). 1980. Plenum Press, New York, 583pp. ¥22,840. 1979年に催された倍数性に関する国際シンポジウムの記録。31篇の報告が収められており最近の研究をチェックするのに役立つ。

Experimental Studies on the Nature of Species VI. Interspecific Hybrid Derivatives between Facul-

tatively Apomictic Species of Bluegrasses and their Responses to Contrasting Environments. W. M. Hiesey & M. A. Nobs. 1982. Carnegie Institution of Washington, Washington, 119pp. ¥4,400.

故 Clausen 博士に率いられたカーネギー学派のおそらく最後の出版物となるであろう。ここに収められた研究は第2次大戦下において食糧増産に貢献すべく企てられたものだという。条件的アポミクト間の交配によって、交配の必要のない super-strain を産み出すべく、Poa 属のさまざまな系統の間で交配が行なわれた。その結果は貴重な資料であるが、一連の輝かしい業績の最後を飾るにはやや淋しい出版物である。

Kew Chromosome Conference II. P. E. Bradham & M. D. Bennett (eds.). 1983. George Allen & Unwin, London, 382pp. ¥9,968.

1982年に英国のキューアイ植物園で開催された第2回染色体国際会議の記録。染色体構造、染色体の配置 (disposition) とゲノムの編制 (Organization), 対合期染色体の微細構造, Mitosis と Miosis における染色体の行動、染色体の進化の5つのトピックスの下に37の報告が寄せられている。植物細胞遺伝学が新しい意欲的な展開を遂げつつある現状がレビューされていてありがたい。J. Heslop-Harrison の特別講演 "Chromosomes, Cladism and the New Evolutionary Debate" の記録及び46のポスター報告の要旨も収録されている。

Evolution Now. A Century after Darwin. J. Maynard-Smith (ed.). 1982. W. H. Freeman and Co., San Francisco, 239pp.

Nature 誌などに投稿された論文を再録し、現代進化生物学の論争点を一般読者に紹介することを試みている。生命の起源、ゲノムの進化、ラマルク的遺伝と免疫のパズル、自然のパターン、進化—突然か漸次か、行動の進化の6部から構成されている。ペーパーバック版。

Understanding Evolution. E. D. Hanson. 1981. Oxford University Press, New York, 552pp. ¥8,380. Micromolecular Evolution, Systematics and Ecology. O. R. Gottlieb. 1982. Springer-Verlag, Berlin, 170pp. ¥11,060.

フラボノイド・アルカロイド・他感作用物質などの低分子化合物の進化に関する最近の研究をまとめたもの。なお著者はアイソザイム研究で著名な L. D. Gottlieb とは別人物である。

Genome Evolution. G. A. Dover & R. B. Flavell. 1982. Academic Press, London, 382pp. Hard: ¥12,640. Paper: ¥8,000.

ケンブリッジで行なわれた国際シンポジウムの記録文集。18篇の報告が収められている。ゲノム進化のモード、遺伝子族の進化、核の体制と DNA 量、ゲノムの進化と種の分離の4部から成り、終章を「今後の展望—未解決の進化問題」と題して理論家の Maynard-Smith が結んでいる。英国植物育種研究所の M. D. Bennett や J. Hutchinson らの植物を材料とした報告は興味深い。

Advances in Cladistics. Proceedings of the First Meeting of the Willi Henig Society. V. A. Funk & D. R. Brooks (eds.). 1981. The New York Botanical Garden, New York, 250pp.

Ditto 2. Proceedings of the Second Meeting of the Willi Henig Society. N. I. Plantnick & V. A. Funk (eds.). 1983. Columbia University Press, New York, 218pp. ¥13,600.

1巻・2巻ともに *Botanical Cladistics* という節をおこして数篇の報告を収めており、クラディズムの植物系統学への浸透のめざましさを反映した出版物となっている。アイソザイムのデータをどう扱うか、雑種化による網目状の進化をどう扱うか、生物地理学との関連など広汎な問題が論じられている。

Problems of Phylogenetic Reconstruction. K. A. Joysey & A. E. Friday. 1982. Academic Press, London, 442pp. ¥18,720.

クラディズムを含む幅広い見地からの系統学論集。11篇の報告が収められており、大英博物館のパターソンが「形態的形質と相同性」と題して50ページに及ぶ力作を寄せているのが目を引く。

Biometry, second edition. R. R. Sokal & F. J. Rohlf. 1981. W. H. Freeman and Co., 859pp. ¥10,860.

Statistical Tables. F. J. Rohlf & R. R. Sokal. 1981. W. H. Freeman and Co., ¥3,680.

統計的手法を用いた仕事をしている人はそなえておくと便利である。

Physiological Ecology: an Evolutionary Approach to Resource Use. 1981. Blackwell Scientific Publications, Oxford, 393pp.

Biology and Ecology of Weeds. W. Holzner & M. Numata (eds.). 1982. Dr. W. Junk Publications, the Hague, 461pp. ¥29,250.

Evolutionary Biology 13. M. K. Hecht et al. (eds.). 1980. Plenum Press, New York, 301pp. ¥13,440. 植物学者では D. G. Lloyd が「有性生殖の利点とハンディキャップ」と題する約40ページの総説を寄せている。理論家 T. Prout の「密度非依存的淘汰と密度依存的個体群生長の関係」は集団生物学の理論に興味のある人には有益な総説であろう。

Ditto 14. M. K. Hecht et al. (eds.). 1981. Plenum Press, 445p. ¥15,160.

この号には植物学者の報告はない。根井正利氏が人種の遺伝的分化について、S. Karlin が migration をめぐる集団遺伝学的諸問題について包括的な総説を寄せている。

Ditto 15. M. K. Hecht et al. (eds.). 1982. Plenum Press, 442pp. ¥19,000.

植物学者では A. H. Gentry が「新熱帯の植物の種多様性パターン」と題する80ページの総説を寄せている。J. C. Avise & C. F. Aquadro の「脊椎動物における遺伝的距離」では最近までに集められた豊富なデータの裏付けをもとに、タンパク質の電気泳動データによる「遺伝的距離」と絶対的時間軸との対応が論じられていて興味深い。

カナダ・モントリオール市で開催された IOPB 国際シンポジウムに出席して

河野 昭一

1983年7月17—21日の5日間にわたって、長い間開店休業状態にあったIOPB (International Organization of Plant Biosystematists) の国際シンポジウムが、久方ぶりに "Plant Biosystematics: 40 Years Later" と題して、かつて1960年に第1回目のIOPBシンポジウムが開催されたゆかりの地、カナダ・モントリオール市のMacGill大学にて開かれました。今回のシンポジウムの開催に当っては、現在IOPB会長のDr. W. F. Grant (MacGill大学)のここ数年間にわたる準備と努力による所が極めて大きく、今回の成果は彼の熱意に負う所が多大あります。そもそも、IOPBはその発足の時以来、一つにはIAPT (国際植物分類学会)の1 branchとして組織されたものの、独立した財政基盤を持たず、初期の華々しいデビューの割には組織的な学問的な活動が弱かったために、旧態依然とした細胞分類学 Cytotaxonomyを主体とする研究に重点がおかれて、* 研究の底辺を拡張する努力が不足し、結果としてIOPBの組織自体もその活力を失いかけた時期があったことは事実です。しかし、1960年から20年余り経過した今日の研究動向とその現状並びに将来の展望に関しては、今回の国際シンポジウムで取りあげられた講演のトピックスと内容をみればおのずから明らかであろうと思われます。

以下にプログラムの一端を紹介しておきたいと思います。

Overview:

VICKERY, R. K. : Biosystematics 1983

JONES, K. : Cytology and Biosystematics 1983

JONSELL, B. E. : The Biological Species Concept
Reexamined

Chromosomes and Evolution:

BENNETT, M. S. : The genome and biosystematics

DOYLE, J. J., BEACHY, R. N. and LEWIS, W. H. :

Evolution of rDNA in *Claytonia* polyploid

IOPB 1983
PLANT BIOSYSTEMATICS: FORTY YEARS LATER
LA BIOSYNTÉMATIQUE VÉGÉTALE: 40 ANS PLUS TARD

McGILL University/Université McGill

Montréal

July 17-21/17-21 juillet, 1983



with the
COMPLIMENTS OF THE AUTHORS

THE STRUCTURE AND ORIGIN OF SPECIES
—WWC & C.L.G.

Camp, W.H. and Gilly, C.L. 1943.

The structure and origin of
species. Brittonia 4: 323-385.

これは今回の国際シンポジウムのプログラムの表紙にのった、かつて1943年にCampとGillyがBiosystematicsを提倡した時に書いた戯画の再録である。1983年の今日、我々のおかれている状況は一体どうであろうか。その判断は会員諸兄にゆだねたい。

complexes

JAMES, S. H. : Chromosomal systems, population differentiation and the pursuit of hybridity in *Isotoma*

CONTANDRIOPoulos, J. : Spéciation et évolution du genre *Campanula* dans la région méditerranéenne

BARLOW, B. A. : Chromosome evolution and adaptation in mistletoes

Reproductive Systems and Hybridization:

GANDERS, F. R. and NAGATA, K. M. : The role of hybridization in the evolution of

* IOPBが手がけて来た最も組織的な活動は、IOPB Chromosome Indexの編集と出版である。

Bidens on the Hawaiian Islands

SMALL, E. : Hybridization in the domesticated-weed-wild complex

URBANSKA, K. : Plant reproductive strategies

KEVAN, P. G. : Pollination and biosystematics

ASKER, S. : Apomixis and biosystematics

MULCAHY, D. L. : Biosystematics and incompatibility

WEBB, C. J. : Constraints on the evolution of plant breeding systems and its relevance to systematics

MORISSET, P. : L'importance de l'étude de la plasticité phénotypique en biosystématique

JACKSON, R. C. : Chromosome pairing in species and hybrids

Population and Biosystematics:

SCHAAL, B. A. : Population biology and biosystematics

VERLAQUE, R. : Etude biosystématique et phylogénétique des Dipsacaceae

FARVARGER, C. : Cytogeographie et biosystématique

BORGREN, L. : Biosystematics of endemic Macaronesian plants

ASHTON, P. S. : Biosystematics of tropical forest trees: A problem of rare species

Biosystematics and its Practical Application:

LEWIS, W. H. : Biosystematics and medicine

ZOHARY, D. : Biosystematics, hybridization and polyploidy in agriculture

BRANDENBURG, W. A. : Biosystematics and hybridization in horticultural plants

ILTIS, H. H. and DEEBLEY, J. F. : The evolution of Zea: 40 years later

BRAMWELL, D. : Biosystematics and conservation

Biosystematics of Mosses and Ferns:

STONEBURNER, A. : Biosystematics of Bryophytes

WYATT, R. and BRITTON, D. M. : Biosystematic studies on Pteridophytes in Canada: Progress and problems

Methodology in Biosystematics:

FUKUDA, I. : Chromosome banding and biosystematics

REES, H. : Nuclear DNA variation and the homology of chromosomes

DENFORD, K. E. : Phytochemical approaches to biosystematics

GOTTLIEB, L. D. : Isozyme evidence and problem solving in plant systematics

MCNEILL, J. : Numerical taxonomy and biosystematics

FUNK, V. A. : Cladistics and biosystematics

PHIPPS, J. B. : Cladistic approaches in an apomictic and polyploid genus *Crataegus* (Rosaceae)

FERGUSON, I. K. : Pollen morphology and biosystematics of the subfamily Papilioideae

The Translation of Experimental Data into Taxonomic Reality:

WANGER, W. H. : A comparison of taxonomic methods in biosystematics

JONES, K. : Observations on the current trends of systematics towards a strictly morphological definition of the species and its implications to experimental taxonomy

このようにシンポジウムでは染色体と進化、繁殖システムと雑種形成、植物集団と種生物学、種生物学とその応用、コケ植物とシダ植物の種生物学、種生物学における方法論などのトピックスが取りあげられ、具体的な新事実の提出と論議が交されました。植物の送粉システム (pollination system) の役割、rDNAの構造、核DNAの変異、アイソザイムの変異、集団生物学的研究アプローチの採用など新たな形質や研究方法を用いた解析が種分化の機構やその過程を明らかにするために導入されつつあります。ただしこれらの新しい手法が植物の種生物学的研究においてどのような局面を将来切り開いていくかはまだ未知数です。今後の研究の進展を注意深く見まもりたいと思います。

今回の国際シンポジウムにはアメリカ合衆国、カナダ、ヨーロッパ諸国より約 120 名 (推定) 余りの参加

者がありましたが、かってモントリオールの Institut Botanique の所長であった Pierre Dansereau 博士や、すでに現役を引退されたカリフォルニア大学ロスアンゼルス校の教授で、Onagraceae で数多くの研究をされた Hanlan Lewis 博士など、なつかしい顔にめぐり合えたことは何よりでした。しかし出席が予定されていた IOPB 初代会長の Askell および Doris Löve 博士夫妻が直前にシンポジウムへの参加をキャンセルされたことは淋しい限りでした（夫妻は筆者の大学院時代の指導教授でもあります）。ちなみに日本からの参加者は、講演をされた福田一郎氏（東京女子大）に加えて渡辺邦秋（神戸大）、大原雅（北大環境科学大学院生—当時は米国ピッパーグ市カーネギー自然史博物館に留学中）の両氏と私の4名ありました。大会第2日目の午後、かって筆者が大学院学生時代をすごした研究所があるモントリオール植物園にエクスカーションが組まれ、何年ぶりかの懐かしい訪問

をはたすことができました。Institut Botanique には、かって、Marie-Victorin 神父によって創設された70万点以上の標本を蔵する Herbarium Marie-Victorin と5万冊余の植物系統分類学関係の蔵書を有する図書室とがあります。しかし Curator であった Ernest Rouleau 博士が数年前に引退された後、いまだに後継者がその職についていないことは誠に淋しく、また憂るべき事態であるといわなければなりません。

おわりに、IOPB は今度正式に会費制を採用することになり（1983—1987の5ヶ年間の通年会費 US\$ 25.00），次号で添付するような会員加入申し込み用紙が配布されていることをお知らせしておきたいと思います。加入ご希望の方は Dr. Liv Borgen (Norway) および Dr. Krystyna Urbanska (Switzerland) に直接ご連絡下さい。なお、シンポジウムの講演記録は、Plant Biosystematics として近く Academic Press より出版される予定になっています。

編集後記

種生物学研究会 News Letter 第1号をお届けします。これまでにも何度か謄写版刷りの会報が出されたことがあります、活字印刷によるものは今回がはじめてですのでこれを第1号と致します。会報発行につきましては本年1月シンポジウム後の総会においてその必要性が確認され、萩原信介・矢原徹一の両名が編集準備担当者として委嘱をうけました。その後両名で相談をすすめ、やっと第1号の発行にこぎつけた次第です。

会報を発行するに至った理由の一つは、会員が400名を越えるに及んで正式な会務報告を行なう場が必要となつたことにあります。しかしこの会報が単なる会務報告にとどまらず、会員間の有益な情報交換・意見交換の場として発展していくことを編集担当者としては期待し、またそのように努力していくつもりです。その意味で本号には1980年以後の種生物学関連出版物リストを掲載しました。このリスト作製にあたっては、阪本寧男・山口裕文・山本進一の各氏のご協力を得ました。また入手価格についてはアカデミア洋書の協力を得ました。この場をかりてご協力に厚く感謝する次第です。おそらくリストにもれた出版物も少なからずあることと思います。編集担当者までご一報下されば

次号で補充紹介を行ないたいと思います。またこれからも続々と新しい出版物が発行されることでしょう。関連分野の方から簡単な書評をお送り頂けることを期待しております。

少人数の勉強会から出発したというこの研究会も、今や会員400人を擁する大世帯となりました。そしてこの間の大きな変化は、種生物学あるいは進化生物学という分野が生物学全体の中で確実に市民権を獲得してきていることでしょう。5年前には耳新しかった進化生態学という言葉も今や巷に喧伝されるところとなりました。このような現状は私たちにとって好ましいことにはちがいありませんが、逆に「種生物学」が規範化された領域として硬直化していく危険性も芽生えてきているように思います。新しい学問の発展のために今何が必要かということを、認識論・方法論の再検討も含めて大いに議論すべき時期に来ているのではないかでしょうか。その討論の場として、この会報が利用されることを期待したいと思います。この会報は会員各位の自由な投稿によってはじめて生命力を得るもので、どしどし原稿をお寄せ下さいようお願い致します。

（矢原記）

会計報告

昭和56年度（56. 4. 1—57. 3. 31）

項目	決算額	備考
収入		
○繰越金	1,084,395	借入金 145,450 を含む
前年度決算額		
過年度繰越金記載もれ	125,483	{ 54年度賛金(賛助会費等) 125,515 及び郵便手金残高、振込手数料 -32
○会費 (111人)	293,155	会員数 310 人
○過年度会費 (65人)	167,000	
○バックナンバー売上げ 68冊	224,000	号数冊数不明 67,000 円を含む
○同上送料	2,990	
	計 1,897,023	
支出		
○印刷費		
V号印刷費	1,170,000	121 頁、1,000 部
同別刷代	8,000	100 円 × 10 冊 × 8 人
会計報告書	4,500	54, 55 年度会計報告
総会報告書	4,500	56 年度総会報告
○通信費		
郵送料、電話料	14,220	VI 号発送費は含まず
振替手数料	2,775	
○事務費	6,000	カードケース等
○借入金返済	45,060	堀田先生へ、借入金の一部として
	計 1,255,055	
次年度繰越金	641,968	借入金 100,390 を含む

項目	決算額	備考
収入		
○緑越金	641,968	借入金未返済分 100,390 含む
○会費 (260人)	1,123,000	{ 次年度会費前納 408,000 含む 会員数 370人
○過年度会費 (242人)	672,345	
○バックナンバー売上げ 69冊	168,000	
○同上送料	2,905	
	計 2,608,218	
支出		
○印刷費	1,400,000	VI号 144頁 1,000部
○通信費		
VI, VII号発送	116,790	VI号分 56,790, VII号分 60,000
振込手数料	11,505	
○事務費		
備品費	3,500	ゴム印
消耗品費	7,750	用紙等
謝金	2,000	VII号発送補助等
	計 1,541,545	
次年度緑越金	1,066,673	借入金未返済分 100,390 を含む

上記の56年度、57年度会計報告を適正と認めます。

1983年10月9日

会計監査委員 益山樹生
小林未央